

TOYO TIRES

**中期経営計画/サステナビリティ経営
進捗状況**

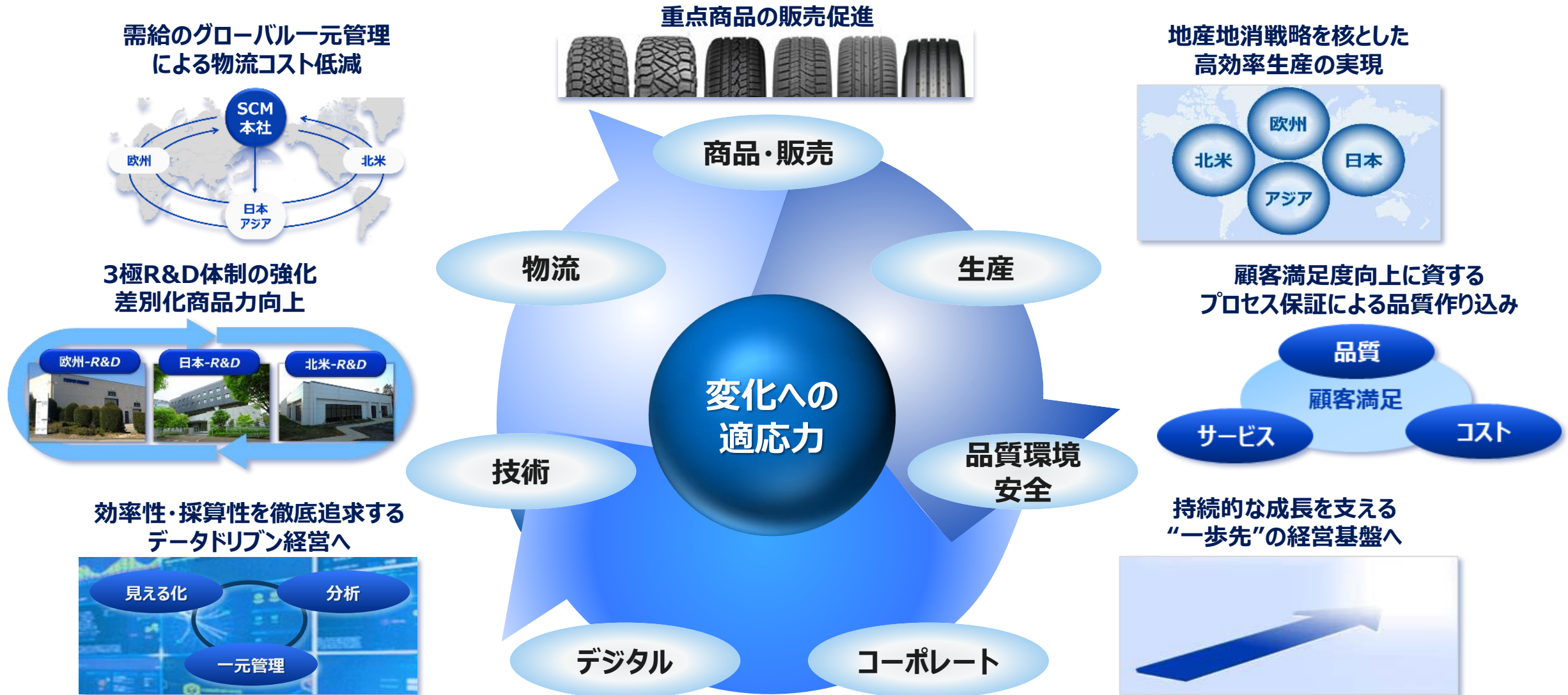
2023年2月14日

TOYO TIRE 株式会社

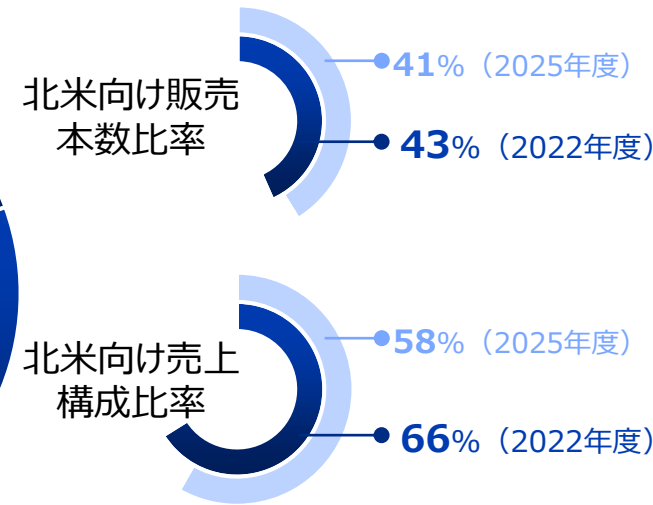
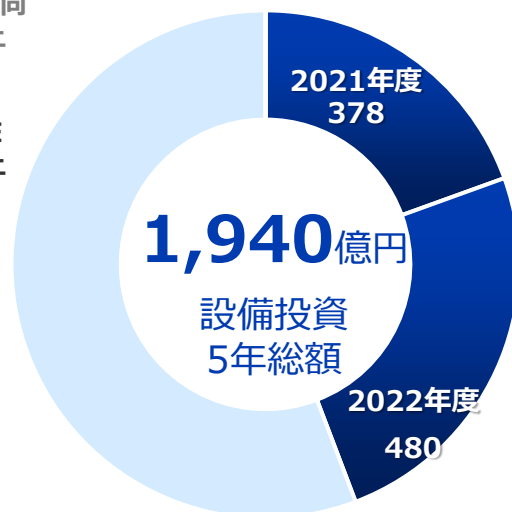
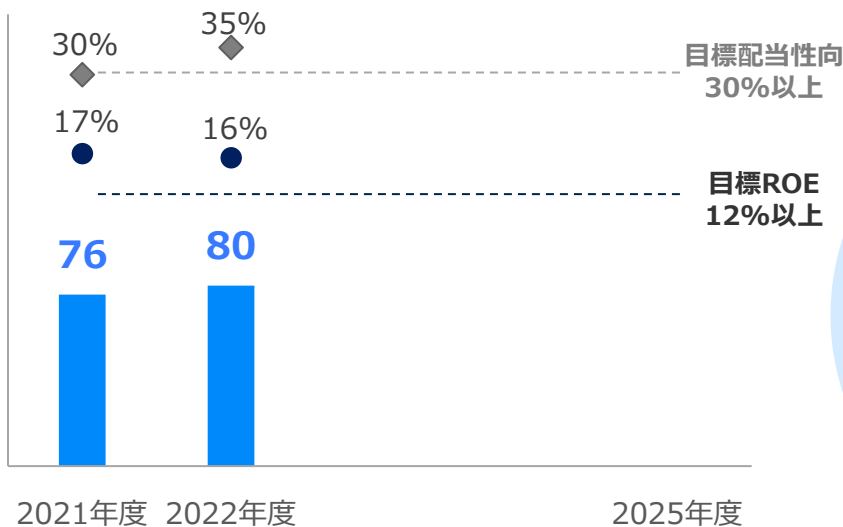
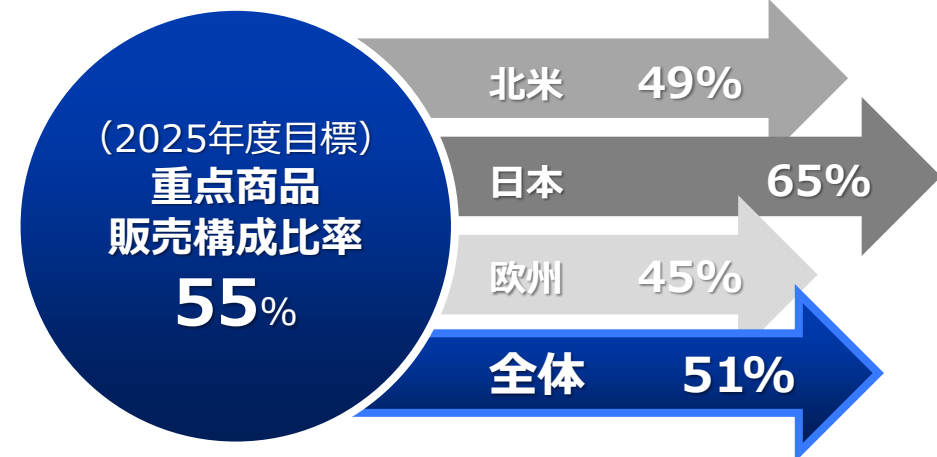
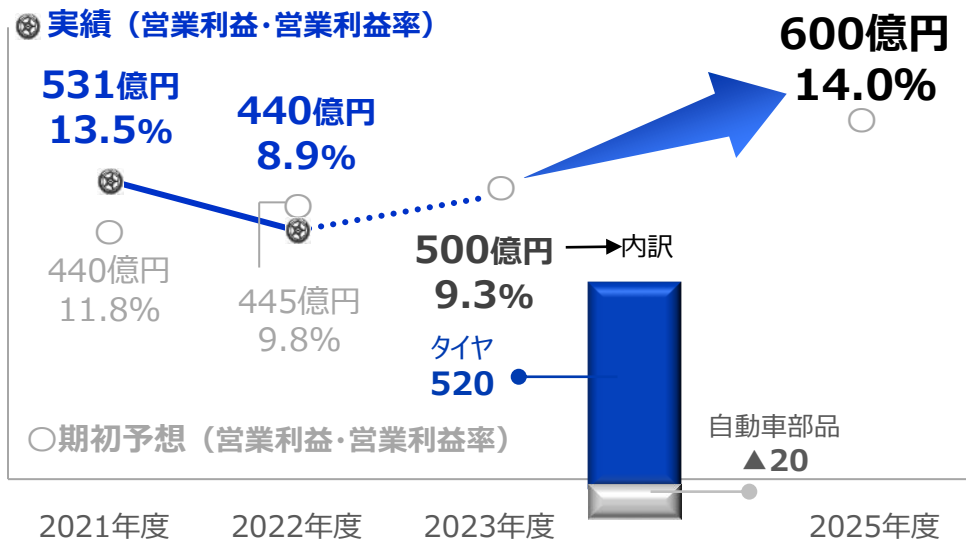
1. 中期経営計画「中計'21」進捗状況

2. サステナビリティ経営 進捗状況

グローバルでの全機能連携を通じ、変化へ迅速・柔軟に適應する力を強化



環境変化に柔軟に適応し、目標の達成に向けて **増益基調に転換**



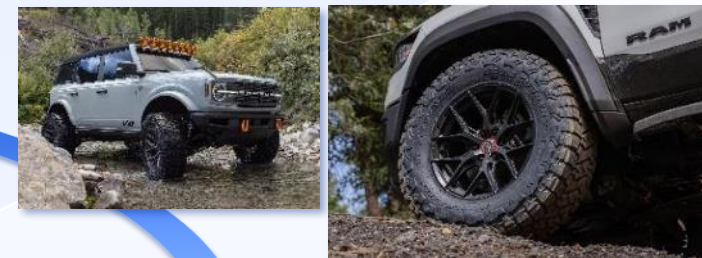
独自性・嗜好性を持った新商品の開発・継続的市場投入

全米の販売網を活用した商品供給
大口徑オフロードタイヤで圧倒的ポジションの堅守



商品
企画

販売



北米市場でのプレゼンスの確立、
ニーズに応える商品供給

SUV・ピックアップトラック用
EVタイヤの研究開発

モータースポーツ活動を通じた
性能・ブランド力向上



第3回 SCORE BAJA 400で
総合優勝したチームをサポート

200万以上のフォロワーに対する
ダイレクトマーケティング

マーケ
ティング

R&D



モジュール設計の適用拡大による
早期商品化

北米販売シェア5位に*



欧州

セルビア工場のフル生産化/販売チャネルとの連携強化
最新設備を活かした商品設計



セルビア工場 開所式典

レース参戦によるブランド力強化



ダカールラリー2023 市販車部門優勝チームをサポート

アジア

TOYOブランドの販売拡充
地域特化型商品の開発・販売



日本

組織体制・営業/物流拠点の最適化
高趣向性・高機能商品を積極投入



OPEN COUNTRY A/T III

2022年7月上市



M937

2022年9月上市



PROXES Sport 2

2023年2月上市

新車

フラッグシップモデルへの採用によるブランド
認知度アップ



トヨタ自動車「クラウン」



マツダ「MAZDA CX-60」

セルビア工場 -2022年8月に初出荷、同12月にグランドオープン-



初出荷の様子



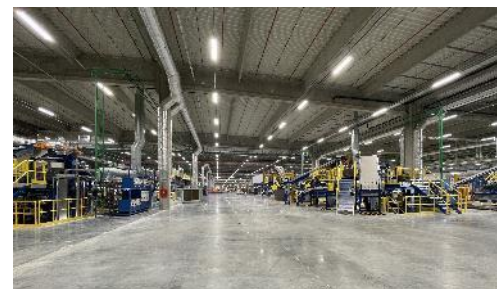
開所式典で挨拶する社長の清水



開所式典

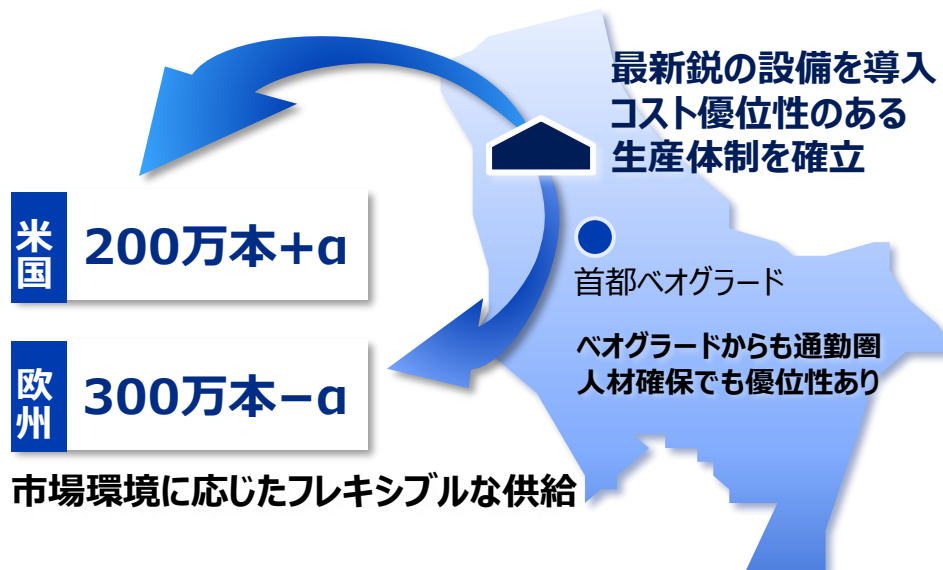


工場全景



製造工程

2023年下期に年産500万本体制を確立



OPEN COUNTRY M/T

北米工場
WLTRの
生産能力増強

日本工場
老朽化設備の更新
よる生産基盤強化
地産地消の推進

マレーシア工場
拠点集約による
生産効率向上
TOYOブランドの
生産集中

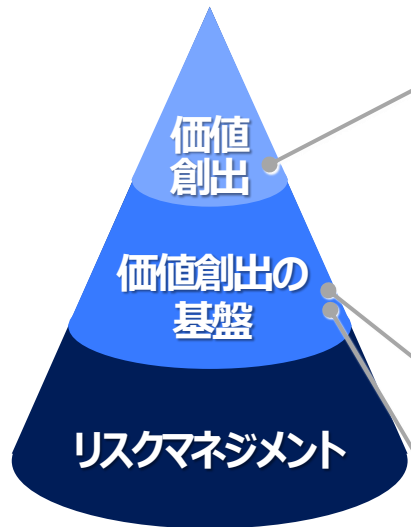


PROXES CR1

1. 中期経営計画「中計'21」 進捗状況

2. サステナビリティ経営 進捗状況

マテリアリティの取り組み状況



1 持続可能なモビリティ社会の実現に寄与する

モビリティの環境負荷低減
 ▶ モデルチェンジごとの低燃費性能のグレードアップ

安全・安心なモビリティ
 ▶ 製品ライフとWET制動の両立

2 豊かなモビリティライフを支え、創造する

走りの愉しみ
 ▶ 差別化したSUV・CUV商品開発

4 次世代モビリティの技術革新を続ける

▶ 新素材・サステナブル材料
 製品開発におけるサステナブル素材使用比率で2030年40%をめざす



OPEN COUNTRY M/T-R

- OPEN COUNTRY M/T-Rのダカールラリー2023用スペックにおいては、主にトレッド、カーカスプライ、サイドウォールの部材に、バイオマス^{※2}由来のブタジエンゴムとスチレンブタジエンゴム、リサイクル素材として再生ビードワイヤーを採用
- ※2 植物等の再生可能な材料を由来とする
- 過酷な条件下のオフロードレースへの参戦経験値を製品開発全般にフィードバックし、継続的に性能・技術向上に繋げる



PROXES Comfort II S

- 新シリカ分散剤の採用により、転がり抵抗低減、WET性能、耐摩耗性能向上
- PROXES C1S比で転がり抵抗軽減率28%^{※1}
- 新シリカ分散剤は天然由来のサステナブル素材使用
- 2023年3月より国内市場で販売



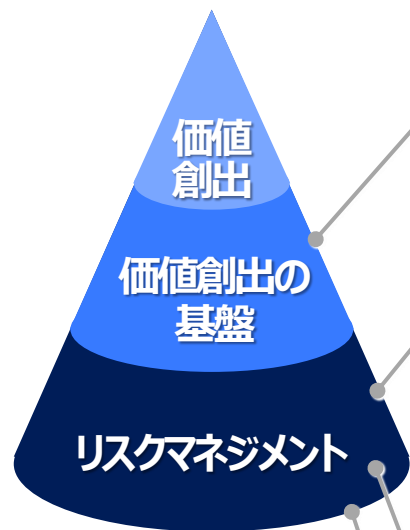
PROXES Sport 2

- モータースポーツでの過酷な条件から得た知見を生かし、スポーツタイヤに求められるハンドリング性能とブレーキ性能を高次元で実現
- PROXES Sport比でWET制動距離16%短縮^{※1}
- 2023年2月より国内市場で販売

※1 当社所定条件での測定



マテリアリティの取り組み状況



3 多様な人財の挑戦と働きがいを創出する

- ▶ 従業員エンゲージメントの促進
2021年度に実施した従業員意識調査の結果にもとづき、組織ごとに課題を改善するアクション計画を策定（実行中）

5 全企業活動における脱炭素を追求する

- ▶ Scope1&2
 - ・高効率機器への更新
 - ・仙台工場で購入電力の100%を再生可能エネルギー由来に転換。桑名工場および米国工場で2023年度に100%転換予定
 - ・セルビア工場で太陽光発電開始（発電電力容量8.4MW、年間7,100トンのCO2排出量削減に寄与）
- ▶ Scope3（輸送段階）
タイヤの国内幹線輸送でのモーダルシフトや直送の推進により、タイヤ重量当たりCO2排出量を2019年度比9.0%削減
- ▶ インターナル・カーボンプライシング制度の試験導入
2023年度に脱炭素関連投資/費用の評価における有効性を検証し、2024年より正式導入予定

6 サプライチェーンのサステナビリティを促進する

- ▶ 責任ある原材料調達の推進
サプライチェーンの環境・社会リスク評価を客観的に行うため、第三者機関の調査・評価システムを導入
2025年末までに100%のサプライヤーの調査完了をめざす

7 モノづくりの根幹（品質と安全性）を守り抜く

- ▶ 生産工程内品質の可視化の推進
- ▶ 独自のドライブシミュレータによるタイヤ安全啓発活動



情報開示の充実

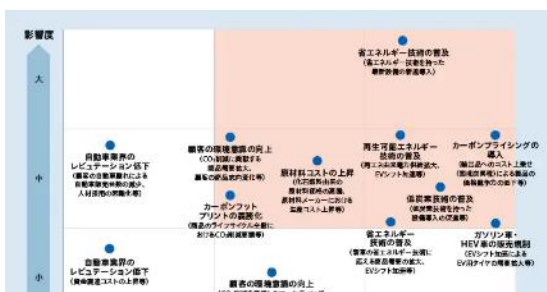
◆TCFDへの対応

2022年10月

- ・気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言へ賛同を表明
- ・シナリオ分析にもとづくリスクと機会を開示

<https://www.toyotires.co.jp/csr/materiality/decarbonization/>

<リスク・機会の重要度評価>



<リスク・機会の一覧>

<移行シナリオ> (凡例) 短期：2025年頃、中期：2030年頃、長期：2050年頃

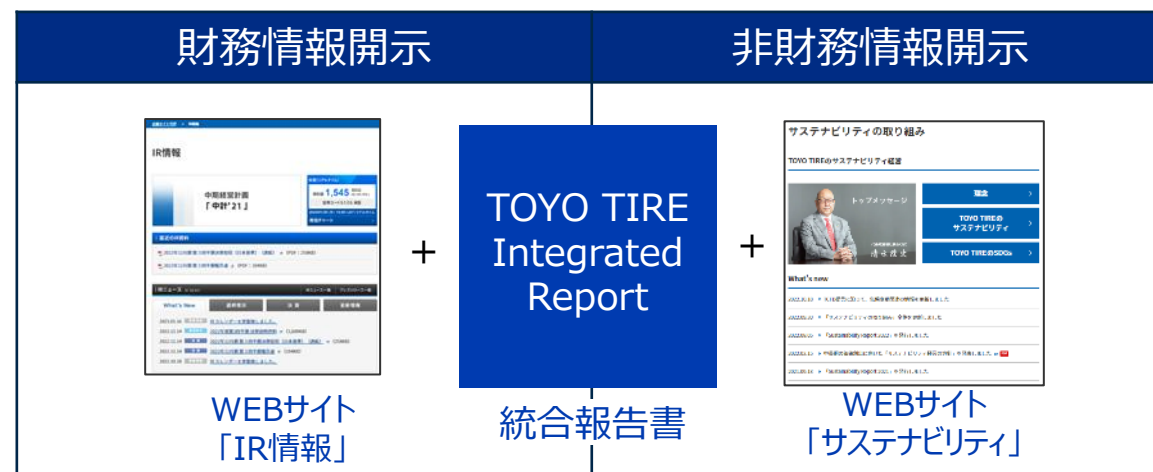
リスク/機会	属性	気候関連事象	事業への影響	主な財務的影響	影響度評価
リスク	政策	カーボンライティングの導入 中～長期	・各種サービスへのコスト転嫁	・物流費の増加	大
			・国境炭素税の導入 ・自動車関連の輸出品への環境関連税の導入 ・CO ₂ 排出権の取引価格の上昇	・研究開発費・設備投資の増加（低炭素製品へのシフト） ・収益性の悪化（関税） ・排出権購入価格負担増	中
機会	ガソリン車・HEV車の販売規制 短～長期	EV向けタイヤの需要拡大 ・タイヤ要求性能の変化 ・ガソリン車・HEV市場の縮小	・EV向けタイヤの需要拡大	・研究開発費・設備投資の増加（EV向けタイヤ開発、性能改善） ・売上減少（タイヤ需要減）	中

◆統合報告書について

2022年度



2023年度



TOYO TIRES

本資料に掲載されている業績予想や計画などの将来にわたる部分については、現時点で入手された情報に基づき判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

従いまして、実際の業績は、さまざまな要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことを十分にご認識の上、ご活用下さい。